

2020年4月～6月、新型コロナウイルス感染拡大の最中に開催した「PICTURE」展は、当初、紙の上に描いた画面を写真撮影しプリントした物を「絵画」としてギャラリーで展示するという企画でした。これは、絵画の“本質”はどこにあるのか、「作品の実物」にのみに宿るものなのか、という作家の疑問を、撮影、プリント、展示という工程を経て問うものでした。

しかし政府による緊急事態宣言下で、鑑賞の場をギャラリーでの実物鑑賞からオンラインでの展示鑑賞へと移行する事になり、それは結果的に、「PICTURE」展がテーマとしていた「絵画の本質が存在する場所」を、半ば強制的に「ディスプレイ越しの展示鑑賞」という形でも問う事にもなりました。

絵画の“本質”が、絵具によって支持体に塗り込められたものとするのならば、「PICTURE」は“本質”をそこから解放します。そしてそれは、プリントされギャラリーに展示され、同時に、オンライン展示としても公開されます。

2020年8月現在も続く世界的な新型コロナウイルスの感染状況、または自粛期間を経て大きく変わり始めた人々の生活様式により、今後オンライン展示は展示鑑賞の形態の1つとして定着して行くと考えます。

私達はウイルスの感染状況を伝える情報に翻弄されながら、「実物鑑賞」と「オンライン鑑賞」の間を行き来する事になりました。

世界のどこからでも観る事ができる「オンライン展示」を物理的に「巡回」させる事は、翻ってギャラリーという実在する場所の意味を際立たせます。

先の「PICTURE」展を経験して分かった事は、オンライン展示といえど、その内容はギャラリーの持つ存在感に大きく左右されるという事でした。

新型コロナウイルスによって人の移動が制限された世界において、訪れる事の叶わない遠い場所で、知らない人の手に作品が委ねられ、展示の形を変えて行く事を望みます。

ギャラリー募集のお願い

オンライン巡回展にご協力いただけるギャラリーを探しております。

ご協力いただけるギャラリー様には、下記の2つの形式での展示を提案させていただきます。

- 1 当方で出力したインクジェットプリント作品を郵送にてお送りし、展示設営をしていただく形。
- 2 作品の画像データをインターネットでお送りし、プリンターで出力していただき、展示設営をしていただく形。

どちらの形式でも、360度写真を撮影することができるカメラ（RICOH THETA V ※こちらからお貸し致します）で展示会場を撮影していただき、データを送っていただきます。それをオンライン展示として特設サイトにて公開いたします。

展示設営については、ギャラリー様が「自由に展示構成をしたい」という場合はお任せいたします。

作家本人による展示構成をご希望の場合は、現地会場の写真や映像などを見せていただきながら、リモートで展示構成させていただきます。

（コロナウイルスの感染状況により、現地に行く事ができると判断できれば、現地で展示設営をさせていただきます。）

販売物としては、以下をご用意しています。掛け率についてはご相談の上決めさせていただきます。



プリント作品（アーカイバルピグメントプリント）
A4サイズ ¥22,000 / A3 ノビサイズ ¥33,000
（額別売）
裏面にエディションナンバー・作家サイン入 作品証明書付



100部限定ポスター
オフセット印刷（ダブルトーン+ニス加工）
B2サイズ ¥4,400
表面下部にエディションナンバー入

新たに作品、場、そこにいる人達に出会う機会が制限されている現状ですが、制作を続け、発表する事で、この状況でこそ見つけられる表現形態があると考えております。上記展示形態はご提案の一例ですので、場所や運営者様と相談させていただきながらより良い形を作っていきたいと思っております。ご興味を持ってくださった方は、以下よりお気軽にお問い合わせください。

info@koji-shiroshita.com（城下 浩伺）

<https://koji-shiroshita.com/picture>（特設サイト）